

第1学年 生活科学習指導案

日時 7月4日(火) 第5校時
学級 第1学年1組 29名
指導者 関澤 里織

1 単元名 わたしの あさがお おおきくなあれ 内容(7) 飼育・栽培

2 単元の目標

アサガオを育てることに関心をもち、アサガオの世話をしたり、観察をしたりして、その変化の様子や自分自身の成長に気付き、アサガオを大切に育てることができるようにする。

3 本単元で育てたい資質・能力

○知識・技能の基礎

・アサガオを育てる体験活動を通して、アサガオは生命をもっていることや成長していることに気付く。

・自分とアサガオとの関わりの変化から、自分自身の成長やよさに気付く。

○思考力・判断力・表現力等の基礎

アサガオの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、関わる。

○学びに向かう力・人間性等

アサガオへの親しみをもち、大切にしようとする。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(生活科の目標及び研究主題より)

(心) 自分の思いや願いをもち、体験したり対象と関わったりする中で感じたり考えたりしたことを表現できる子

(心) 友達と考えを伝え合い、互いのよさや違いに気付ける子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

(心) 自分の思いや願いをもち、体験したり対象と関わったりする中で感じたり考えたりしたことを表現できるようにするために、

○深い学びを実現するための多様な表現活動

アサガオを育てる活動を言葉などによって表現し、また振り返ることで、無自覚な気付きを自覚的にし、一つ一つの気付きを関連付ける。ひらがなの学習が終わった頃から、朝の活動時間を利用して「あさがお日記」を書き、友達と伝え合う。子どもから豊かな言葉を引き出すために、個々で作成した「あさがおキャップ」をかぶって身体表現をしたり、アサガオの気持ちを考えたりする。自分のアサガオについて紹介する「あさがおミュージアム」を思い思いの表現方法で作成し、アサガオや自分自身の成長について考え、次の学びに向かう力に結び付ける。

○環境構成の工夫(板書・掲示等)

子どもの主体的な学びにつながるように、アサガオの成長や子どもの関わり方がわかる写真などを活用し、アサガオの成長の様子と学びの経過がわかる環境づくりを行う。

(心) 友達と考えを伝え合い、互いのよさや違いに気付けるようにするために、

○日常的に伝え合う場の設定

アサガオに継続的に関わる活動を通して、熱中し没頭したこと、発見したことや成功したことは表現への意欲となり、自分や友達を認める交流活動につながる。そこで、毎日朝の会で日直が「わたしのあさがお」という題で話すスピーチタイムを設け、互いのアサガオの育ち具合に関する情報をやり取りし、日常的に交流する。

○対話的な学びにつなげる小集団活動

ペアで自分の思いや考えを表現したり、伝え合ったり、協力したりして自分の考えを広げたり深めたりする中で、対話的な学びを展開しながらアサガオや自分自身への気付きの質を高め、栽培活動を豊かにしていく。ペアでアサガオの成長を振り返ったり、これからの世話について考えたりする活動を取り入れる。色別の吹き出しカードなどを使って考えたことを可視化し、友達や教師に伝え表現しながら自分の「あさがおミュージアム」をつくり、自分と友達のアサガオを比較して共通点や相違点に気付いたり考えたりして、今後のアサガオの世話につなげる。

指導計画

*指導計画を作成するにあたり、子どもの実態を踏まえ、単元のねらいに迫るために、各段階における手だての重点を以下のように考えた。

	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き	他教科との関連
5月	○2年生からの種のプレゼント ○お世話・水やりの奨励	○観察カードの工夫 ・種の観察 ・ふた葉の観察	○諸感覚を使った気付き（目手鼻耳心）	○国語 読み聞かせ「いのちのあさがお」 ○図工「あさがおキャップづくり」
6月	○目的意識の確認 ・新一年生、幼稚園・保育園、地域の人に種をプレゼントするため	・本葉の観察 ・弦の観察 ○「あさがお日記」の伝え合い（ペア活動）	○双葉と本葉の違い ○弦の成長から支柱の必要性の話し合い	○国語 読み聞かせ「いのちのまつり」「あさがお」 ○国語「おおきくなったよ」
7月	○水やりの奨励（週明けの萎れたあさがお） ○わたしの「あさがおミュージアム」作成	・花・つぼみの観察 ・花を使った遊び ○夏休みの世話の仕方 ○3つの観点で書くカードの工夫 ○「あさがおミュージアム」（ペア活動）	○水やりの大切さ、よい水やりの仕方 ○友達のアサガオと自分のアサガオの共通点と相違点 ○自分のアサガオへの関わり方の変化	○国語「たからものをおしえよう」 ○算数「あさがおの花の数を数えよう」 ○道徳「たかこのあさがお」
9月	○水やりの奨励 ○目的意識の再確認	・種の観察	○たねのでき方	○算数「あさがおの種を数えよう」
10月	○種のプレゼント ○アサガオとのお別れ	○「あさがおリース」の作成	○最後まで世話を続けた自分自身への気付き	○図工「あさがおのリース」 ○国語「わたしのあさがおものがたり」

指導計画（17時間扱い）

	子どもの活動 (○主な学習活動・子どもの反応・内容)	教師の指導・支援 (◇指導・留意点☆評価*他教科等との関連)
出会う	<p>1 そだてたいな！あさがおのたね（3）</p>	
	<p>① どんな花をそだてようかな。 ○今までの経験を思い出し、一人一人が考える。 ○絵本「いのちのあさがお」を読んでもらって命をつなげたい。 ○2年生から種をもらったことから、育ててみたいという気持ちをもつ。 ○アサガオの種を観察する。 ○どんな花が咲くのか写真をみる。</p> <p>② 種まきの準備をしよう。 ～ふかふかのベッドをつくろう～ ○種まきに必要なものを確かめる。 ○植木鉢に土を入れて準備する。</p> <p>③ 種まきをしよう。 ○種のまき方を確認する。 ○種をまく。 ○種への思いを伝え合う。 ・早く芽を出してね。</p>	<p>◇絵本「いのちのあさがお」を読み聞かせ、あさがおを育てて命をつないでいきたいという気持ちを引き出す。 ◇2年生から種をもらった喜びに共感し、栽培活動への興味関心を引き出し、意欲を高められるようにする。 ◇見る・触る・においをかぐなど諸感覚を働かせて観察することを促す。</p> <p>◇一人一鉢用意する。 ☆アサガオに興味・関心をもって、関わろうとしている。【関・意・態】〈発言・つぶやき〉</p> <p>◇種をまく際、種への思いを言葉に出してまくようにする。 ☆アサガオの成長への思いを絵や文で表現している。【思考・表現】〈観察カード・つぶやき〉</p>

・元気な花を咲かせてね。

か
か
わ
る

2 ぐんぐん おおきくなあれ！ (10)

- ④ 芽が出てきたよ。ふた葉を観察しよう。
○見る・触る・においをかぐなど、諸感覚を働かせてふた葉を観察し、観察カードに書く。
○ふた葉を観察して気付いたことを発表し合う。
○発芽への思いを発表し合う。
・芽が出てきてくれてうれしいな。
・もっともっと大きくなってね。
- ⑤ 葉っぱがたくさん出てきたよ。ふた葉と本葉はどう違うのかな。
○ふた葉と本葉を比べながら観察カードを書く。
○スケッチ名人を選ぶ
○ふた葉と本葉の違いを発表し合う。
○これまでのアサガオの成長過程を振り返り、アサガオの気持ちを考える。
○アサガオへの思いを発表し合う。
・もっともっとおおきくなってね。
・葉っぱがもっとふえるといいな。
・きれいな花を咲かせてね。
- ⑥ つるが出てきたよ！ どうしよう？
○前回と比べ、アサガオの様子が変わったことを発表し合う。
○つるの伸び、たおれてしまうのをどうしたらよいか話し合う。
○支柱を立てる。
○追肥をする。
- ⑦ ぐんぐんつるのびているよ！
○つるの先に着目し、観察カードを書く。
○スケッチ名人を選ぶ
○アサガオへの思いを発表し合う。
・つるはぐんぐんのびるね。
・ずいぶんおおきくなったね。
・もうすぐ花が咲きそうだね。
- ⑧ あさがおがたいへん！ みずやりのしかたをかんがえよう。
○2枚のアサガオの写真を見て、違いを考える。
○なぜ萎れているのか原因を話し合う。
○水やりの仕方を振り返る。
○アサガオを育てる目的を話し合う。
○これまでのお世話の仕方を振り返り、アサガオの立場になって自分へ手紙を書く。

- ◇ふた葉の形、くきの色等に注目させる。
◇アサガオへの思いも書くように促す。
- ☆アサガオの変化や成長の様子について、絵や文で表現している。【思考・表現】〈観察カード・発言〉
- ◇ふた葉1枚、本葉1枚に着目させて、その違いをスケッチで表現させ、「あさがおキャップ」につける。
☆アサガオの変化や成長の様子について、絵や文で表現している。【思考・表現】〈観察カード・発言〉
☆アサガオの変化や成長の様子に気付いている。【気付き】〈発言・観察カード〉
- ◇前回の観察と比べ、つるが伸びてきたことに気付かせ、これまでの経験から支柱を立てるとよいことに気付かせる。
☆アサガオの変化や成長に応じた世話の仕方を自分なりに工夫している。【思考・表現】〈発言・行動観察〉
*国語「おおきくなった」
◇つるの先からつるに着目して観察するように促す。
☆アサガオの変化や成長の様子について、絵や文で表現している。【思考・表現】〈観察カード・発言〉
☆アサガオの変化や成長の様子に気付いている。【気付き】〈発言・観察カード〉
*国語 読み聞かせ「あさがお」
◇休日に撮影した萎れたアサガオの写真、水やりをして元気になったアサガオの写真を提示する。
◇アサガオの上、真ん中、根元のどこから水やりをしているか確認し、アサガオにとってよい水やりの仕方に気付かせる。
◇新一年生や地域の人にアサガオの種をプレゼントするために、「命のバトン」をつなぐ大切さに気付かせる。
☆アサガオの変化や成長に応じた世話の仕方があることに気付いている。【気付き】〈発言・観察カード〉

<p>か か わ る</p> <p>(本 時)</p>	<p>⑨ あさがおの花が咲いたよ！ ○アサガオの花を観察する。 ○アサガオへの思いを友達と発表し合う。 ・花が咲いてうれしいな。 ・大きな花が咲いたよ。 ・やっと花が咲いたよ。 ○「あさがおミュージアム」を作って、花が咲いた喜び、あさがおの成長をたくさんの人に知らせたいということを話し合う。</p> <p>⑩ 「あさがおミュージアム」をつくろう① ○自分のアサガオの成長の様子を水色吹き出しカードに書く。</p> <p>⑪ 「あさがおミュージアム」をつくろう② ○これまでの観察カードと「あさがお日記」を振り返り、カードに書いたり作ったりする。 ・水色→アサガオについて ・黄色→自分とアサガオについて ・桃色→自分について</p> <p>⑫ アサガオの花で楽しもう！ ○アサガオの花でできることを話し合う。 ○自分のやりたい方法を選んでアサガオで楽しむ。</p> <p>⑬ 種ができたよ！ ○種を観察する。 ○種とりをする。 ○種への思いを発表し合う。 ・たくさん種がとれたね。 ・種は命のバトンだね。 ・たくさんの人に種をプレゼントしたいな。 ・また、来年アサガオを育てたいな。</p>	<p>* 国語読み聞かせ『いのちのあさがお』 『いのちのまつり』</p> <p>◇花が咲いた喜びに共感する。 ◇3色のカードにアサガオの成長、自分とアサガオの関わり（お世話）、自分のことを分類しておく。 ☆アサガオの成長には、継続的な世話が大切であることや世話を続けている自分に気付いている。【気付き】〈吹き出し・つぶやき〉</p> <p>◇自分のアサガオをよく観察したり、これまでの成長の様子を振り返ったりしながら、自分のアサガオについて「あさがおミュージアム」で知らせたいことを書く。 ☆アサガオの変化や成長の様子について、絵や文で表現している。【思考・表現】〈観察カード・発言〉</p> <p>◇これまでの観察カードを見ながら、自分とアサガオの関わりを思い出させる。 ☆アサガオの成長には、継続的な世話が大切であることや世話を続けている自分に気付いている。【気付き】〈吹き出し・つぶやき〉 * 国語「たからものをおしえよう」</p> <p>◇色水遊び、押し花、たたき染めのコーナーを作り、児童が選択できるような環境を整える。 ☆アサガオの変化成長の様子に気付いている。【気付き】〈発言・観察カード〉</p> <p>◇緑色と茶色の種があることに気付かせる。 ◇1つの実の中にいくつ種が入っているか数えさせる ☆アサガオの変化や成長の様子について、絵や文で表現している。【思考・表現】〈観察カード・発言〉 ☆アサガオは自分と同じように生命をもって成長していることに気付いている。【気付き】〈発言・カード〉</p>
---	--	---

<p>振 り 返 る ・ 広 げ る</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <h3>3 つなごう！いのちのバトン（4）</h3> </div> <p>⑭ どうする？あさがおのこれからを考えよう ○種取りが終わったアサガオをこれからどうするか話し合う。</p> <p>⑮ あさがおさん、さようなら。 ○アサガオを鉢から抜く。 ○ぬいたアサガオでリースを作る。</p> <p>⑯ たねをプレゼントする準備をしよう。 ○種をプレゼントする人を話し合う。 ・新1年生 ・家の人 ・幼稚園 ・保育園・地域の人 ○種を入れる袋を作る。 ○プレゼントする人に育て方のポイントを書く。</p>	<p>◇これまで関わってきたアサガオを大切にしたいという思いを取り上げ、アサガオを抜いても大切にできる方法を考えさせるようにする。 ☆アサガオの成長の様子や自分の世話を振り返り、自分の思いや願いを伝えようとしている。【関・意・態】〈発言・つぶやき〉</p> <p>◇アサガオを抜き、リースを作る。 ◇弦の長さに着目させる。 * 図工「あさがおリースをかざろう」 ◇新1年生、幼稚園、保育園、地域の人等、誰にプレゼントするか話し合う。 ☆育ててきたアサガオとの関わりを振り返</p>
--	---	--

<p>⑰ これまでの活動を振り返る。 ○アサガオと自分のかかわりを振り返る。 ○これまでの活動を振り返り、アサガオに手紙を書く。</p>	<p>り、自分なりの方法で表現している。【思考・表現】〈手紙〉 ◇これまでの観察カードや学習カードを見ながら自分とアサガオの関わりを思い出させる。 ☆アサガオを大切に育て、世話を続けている自分に気付いている。【気付き】〈手紙〉 *国語「わたしのあさがおものがたり」</p>
--	--

評価計画

	ア 生活への 関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての 思考・表現	ウ 身近な環境や 自分についての気付き
	内容(7) 動植物の飼育・栽培		
	動植物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、生き物に親しんだり大切にしたりしようとしている。	動物を飼ったり植物を育てたりすることについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。	生き物は生命をもっていることや成長していること、生き物と自分との関わりに気付いている。
単 元 の 評 価 規 準	単元名 「わたしのあさがお おおきくなあれ」(17)		
	○アサガオの変化や成長の様子に関心を持ち、親しみをもって世話をし、大切に育てようとしている。	○アサガオの変化や成長に合わせて世話の仕方を工夫し、変化や成長の様子を振り返り、自分なりの方法で表現している。	○アサガオの変化や成長の様子に気付くとともに、植物も自分と同じように生命をもって成長していることや大切に世話を続けている自分に気付いている。
小 単 元 の 評 価 規 準	小単元①「そだてたいな！あさがおのたね」(3)		
	① アサガオに興味・関心をもって関わろうとしている。	① アサガオの成長への思いを絵や文で表している。	
小 単 元 の 評 価 規 準	小単元②「ぐんぐんおおきくなあれ」(10)		
	② アサガオの変化や成長の様子に関心を持ち、繰り返し関わり、世話をしようとしている。	② アサガオの変化や成長の様子について、絵や文で表現している。 ③ アサガオの変化や成長に応じた世話の仕方を自分なりに工夫している。	① アサガオの変化や成長の様子に気付いている。 ② アサガオの変化や成長に応じた世話の仕方があることに気付いている。 ③ アサガオの成長には、継続的な世話が大切であることや世話を続けている自分に気付いている。 ④ アサガオは、自分と同じように生命をもって成長していることに気付いている。
単 元 の 評 価 規 準	小単元③「つながり！いのちのバトン」(4)		
	③ アサガオの成長の様子や自分の世話を振り返り、自分の思いや願いを伝えようとしている。	⑤ 育ててきたアサガオとのかかわりを振り返り、自分なりの方法で表現している。	⑥ アサガオ大切に育て、世話を続けている自分や自分の成長に気付いている。

第1学年 算数科学習指導案

日 時 7月4日(火) 第5校時
学 級 第1学年3組 30名
指導者 小豆野 咲子

1 単元名 「10より おおきい かず」

2 単元の目標

○40までの数について、個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。

- [関心・意欲・態度] ・10をひとまとまりにして数えるよさに気付き、ものの個数を数えようとする。
・40までの数の構成を基に、数え方や計算の仕方などに活用しようとする。
- [数学的な考え方] ・40までの数を何十と端数がいくつとみて、数え方や読み方、書き方などを考え、表現することができる
・数の構成や既習の計算を活用して、20までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算の仕方を考え、表現することができる。
- [技能] ・40までの数について数えることができ、数を読んだり書いたりすることができる。
・20までの数の繰り上がりや繰り下がりのない加減計算ができる。
- [知識・理解] ・40までの数について、数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解する。
・20までの数の構成を、加法や減法の式に表せることを理解する。

3 単元について

これまでに児童は、10 までの数について、具体物を数える活動や算数ブロックなどの半具体物などを用いながら、数え方、読み方の理解を深めてきた。また日常生活の中でも物の数、本のページ数、お金など、10 より大きな数に接しており、10 より数の多いものがあることは、既に認識していると思われる。本単元では、まず 20 までの数について、数の数え方や読み方、書き方を学習する。「10 といくつ」という数の構成に基づいて 20 までの数に対する理解を深め、さらに、40 まで数範囲を拡張し、「何十といくつ」という数の見方で、数え方や読み方、書き方などを考える。具体物などを数える活動や算数ブロックなど半具体物の操作活動などを通して、数概念を形成する。また「5と3で8」という加法的な構成も 10 までの数について経験してきたので、これらの学習に基づいて、11 から 20 までの数についても「10 といくつ」とみられるように学習を展開させていきたい。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(算数の目標及び研究主題より)

- 【心】自分の考えを表現できる子
- 【心】友達と考えを伝い合い違いやよさに気付ける子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

① 【心】自分の考えを表現できるようにするために

○問題提示の工夫

教科書ではひまわりの絵の数を数える問題であったが、子どもたちは生活科で5月からあさがおのお母さんになって、毎日あさがおの水やりをして世話を励んでいる。そのため今回はあさがおの鉢植えの模型の絵(折り紙)を使用し、問題提示をすることで、子どもたちに興味・関心をもたせ、主体的に問題に取り組むことができると考える。またあさがおの模型を子どもたちにも配布し、自由に考えさせることで自分の考えを整理させ表現できると考える。

○自力解決の時間設定と算数的活動の工夫

13という数の構成を理解させるために、あさがおの絵をブロックで置き換え、その置き換えたブロックを並び替える操作活動を取り入れていく。ノートや絵を用いながら記述させることで、自分の考えを整理させていきたい。

② 【心】友達と考えを伝い合い違いやよさに気付けるようにするために

○ペア活動の工夫

ペア活動を活用することで、児童全員が主体的に発言する機会がもて、お互いの話をしっかり聞くことができ、よりよい関係が築けるとともに、自分の考えに自信がもてるようにする。その後、全体でも発表し、自分の考えと友達の考えを比べさせ、どちらがよりわかりやすいか考えさせることで、友達の違いやよさに気付けると考える。

5 単元指導計画・評価計画

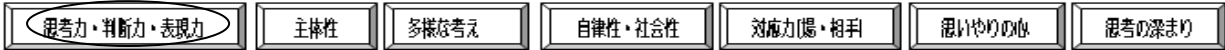
時	目標	学習活動	おもな評価規準
① 10よりおおきいかず 上p. 60～69 6時間			
1 本時	○20までの数の数え方, 唱え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●絵を見て, あさがおとハチ, チョウの数を数える。 ●あさがおは10と3で「じゅうさん」と読み, 「13」と書くことを確認する ●ハチは10と6で「じゅうろく」と読み, 「16」と書くことを確認する。 ●チョウは10と8で「じゅうはち」と読み, 「18」と書くことを確認する。 ●20までの数を数え, 数詞と唱える。 	<p>関 20までの数について, 「10のまとまりと端数がいくつ」とみて, 数え方を工夫して考えようとしている。</p> <p>技 20までの数について, 数詞を唱え, 数えることができる。</p>
2	○20までの数の読み方, 書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●絵を見て, あめや卵の数を数える。 ●10と9で19, 10と10で20と書き表す。 ●下段の図を見て, 20までの数を読んだり書いたりする。 	<p>考 20までの数について, 「10のまとまりといくつ」と構成になっていることを, ブロックと数字で表現することができる。</p> <p>知 20までの数について考え方や数の読み方, 書き方などを理解している。</p>
3	○20までの数の数え方の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ●絵を見て, クレヨンやカスタネット, ヒヨコなどの数を10のまとまりをつくって数える。 ●2個で1パックになっているヨーグルトや1パックに5個入りのティッシュの数を, 工夫して数える。 ●20までの数について, 10といくつで構成されていることを確かめる。 ●バス停に人が並んでる絵を見て, 20までの数の順序数について考える。 	<p>考 11～20個の具体物を, 10といくつという見方を用いて, 数え方を工夫している。</p> <p>技 20までのものの数や順序について, 正しく数えることができる。</p>
4	○20までの数の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●20までの数の分解について, ブロックによる操作活動などを通して数で表す。 	<p>技 20までの数について, 10といくつに分解することができる。</p>
5	○数直線を知り, 数が表せることや, 20までの数についての大小や系列を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●図を見て, カエルやネコ, ウサギの跳んだ距離と位置を調べ, 数直線上の動物の位置を数で表す。 ●数直線の特徴や性質を確認する。 ●数直線を手がかりにして, 20までの数の大小を考える。 	<p>知 数直線の特徴や性質(0が基点, 等間隔の目盛り, 左から右に順に1つずつ数が大きくなるなど)を理解している。</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> ●数直線を手がかりにして, 20までの数の系列を考える。 ●数直線を見ながら, 基準の数との大小, 方向などを考える。 ●2とびで唱えたり, 大きい数から小さい数の順に唱えたりする。 	
② 20よりおおきいかず 上p. 70～71 1時間			
7	○40までの数の数え方, 読み方, 書き方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●絵を見て, 卵や数え棒, 色紙, ペンの数を数える。 ●卵は20と3で「にじゅうさん」と読み, 「23」と書くことを確認する。 ●20と6で26と書き表す。 ●色紙は10が3こで「さんじゅう」と読み, 「30」と書くことを確認する。 ●30と4で34と書き表す。 ●40までの数について, 数え棒の数を数えたり, カ 	<p>考 40までの数について, 「何十と端数がいくつ」とみて, 数え方や読み方, 書き方などを考えている。</p> <p>知 40までの数について数え方や読み方, 書き方などを理解している。</p>

		レンダ－の数を讀んだりする。	
③ たしざんとひきざん	上 p. 72～73 2時間		
8	20 までの数の構成を和や差でとらえ、10 と 1 位数の加法とその逆の減法をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ●数の構成(10といくつ)に基づいて、$10+5$などの式に表し、計算の仕方と考える。 ●数の構成(10といくつ)に基づいて、$10+5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 ●数の構成(10といくつ)に基づいて、$15-5$などの式に表し、計算の仕方を考える。 	<p>関 10 と 1 位数の加法や逆の減法の計算の仕方を、数の構成を基に考えようとしている。</p> <p>知 20 までの数の構成を、加減計算の式に表せることを理解している。</p>
9	○20 までの数の構成を和や差でとらえ、 $12+3$ 、 $15-3$ などの計算ができる。	●20 までの数について、その数の構成に着目して、 $12+3$ や $15-3$ などの式に表し、計算の仕方を考える。	<p>考 $12+3$、$15-3$ などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明したり、工夫したりしている。</p> <p>技 $12+3$、$15-3$ などの計算ができる。</p>

6 本時の学習(1/9時間)

(1)ねらい

20までの数の数え方, 唱え方を理解する。



(2)展開

主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
<p>1 導入</p> <p>あさがおの花は, いくつ咲いているでしょう。 あさがおの数を数えて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●正確に数えるには, どうしたらよいでしょう。ペアで考えてみましょう。 ●いくつ咲いていたか, 分かった数をみんなに教えてください。→13個です。 ●あさがおの花の上にブロックを置いて, ブロックの数をもう一度自分で数えてみましょう。 	<p>◇題意を捉えさせるために, 教師が模型で作った鉢植えのあさがおの絵(折り紙)を提示し, 問題場面に関心をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しく数えるにはどうしたらよいのか, 考えさせ, あさがおをブロックに置き換えて数える必要性に気付かせる。 ・数えられてない児童には, 既習事項を生かして, まず10まで数え, あといくつかと, 数えるように指示する。 ・数人の児童に発表させ, あさがおの花の数は13個でよさそうなことを確認する。 <p>○全員があさがおの上にブロックを置いているか, 机間指導をして確認をする。</p>
<p>2 課題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いくつあるかが, わかりやすいようにならべよう。</p> </div>	
<p>3 自己解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ばらばらに置いてあるブロックを並べ替えてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童に自分の考えで並べさせていく。
<p>4 比較検討(ペア活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分がどのようにブロックを並べたのか隣の人にお話しをしてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10のまとまりをつくることに気付いている児童には, 用紙に記入させる。 ・自分で見つけた分かりやすい並べ方について, 黒板でブロックを使いながら説明をさせ, それぞれの表現のよさを認め合えるようにする。
<p>5 比較検討(全体交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●それぞれのブロックの並べ方について代表者が発表する。 ●どのようにブロックを並べたか発表し合ひましょう。 ●どんな並べ方が分かりやすかったでしょうか。それはどうしてですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「ペアッ!」とすぐに分かるのはどれか。 ②「じゅうさん」という言い方と似ているのはどれか。 <p>◇導入の際使ったあさがお13個とそのあさがおより小さいあさがお14個を使い, 並べてどちらが多いか予測させる。正確に数えるには, 10のまとまりにする必要性に気付かせる。</p>
<p>6 まとめ</p> <p>13のブロックの置き方と読み方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●10のまとまりとばらで数えてみましょう。 <p><u>10といくつで かぞえると わかりやすい。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・13ブロックの置き方と読み方の図をつくっておく。 ・児童にはこれまで, ブロックを横に並べてきているが, 縦に並べても数の大きさは同じであることを知らせる。
<p>7 適用問題をする。</p> <p>(1)ハチの数を数えましょう。</p> <p>(2)チョウの数を数えましょう。</p>	<p>【表】</p> <p>☆20までの数について, 数詞を正しく数えることができたか。(観察・発表)</p>

第1学年 道徳学習指導案

日時 7月4日(火) 第5校時
学級 第1学年4組 29名
指導者 南村 章子

1 主題名 親切な心で (B 親切、思いやり)

2 資料名 「はしの上のおおかみ」(出典:わたしたちの道徳 文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

よりよい人間関係を築くには、温かい心をもって親切にしようとするのが不可欠である。温かい心とは相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりする心である。また、親切とは、温かい心で励ましたり援助をしたりすることである。温かい心で相手のことを親身になって考え、どうされたら嬉しいか、自分はどう振舞うべきかについて考えることで、親切な心が育まれていく。

1年生の児童は自己中心的な傾向が強く、自分のことで精一杯なため相手の立場になって考えることはなかなかできない。親切にすることが良いことだとわかってはいても実践につながらないことも多い。まず身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、温かい心を届けたいという気持ちを深めることができるようにすることが大切である。身近な人との関わりの中で、相手のことを考え、優しく接し、具体的に親切な行為ができるようにすることが必要である。親切にした方もされた方も互いに温かい気持ちになり、人間関係を和やかなものにしていけると気付かせていきたい。

(2) 資料について

弱いものに対して意地悪をし、威張っているおおかみが、自分より大きなくまの優しい心に触れることで変化する話である。

「どうしておおかみは変わったのか」を子どもたちに問いかけることで、相手に対する優しい心遣いが自分の心も温かく気持ちよくすることに気付かせたい。

指導にあたっては、役割演技を通しておおかみの気持ちに共感させることで、温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を深めていきたい。また、よりよい生き方まで考えられるようにしたい。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(道徳の目標及び研究主題より)

【心】 感じたこと考えたことを友達と交流し、よりよく生活しようと思う子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】 感じたこと考えたことを友達と交流し、よりよく生活しようと思うために

○小集団活動の活用

ペアや4人グループで意見交流をすることで、全体の前では発表が苦手な子どもも発言する機会がもて、一斉授業より一人一人の言葉の交流が増える。また、小集団であるため、友達のいろいろな考え方とじっくりと向き合い、自分の考えや思いと比較することができる。役割演技をする場面では、4人の小集団をつくり、2人が対話的に役割演技をすることで登場人物の気持ちになって思いを膨らませたり重ねたりし、共感的理解が深まるようにする。他の2人はその様子を見て、自分の考えと比較したり、感じたことを交流したりすることで、自分はどうすればいいのか、より主体的に考えを深め、よりよく生活しようとする心が育つと考える。

○小集団活動を活発にするための役割演技の活用

1年生は役割演技を取り入れることで、登場人物の気持ちを想像しやすくなる。1本橋の渡り方ではどの方法がよりよい渡り方なのかを、役割演技を通して感じたことや考えたことを交流することができる。また、全員に役割演技をする機会をつくることで、より自分のこととしてとらえて考えたり、自分の心の中を言語化したりすることができ、ねらいとする道徳的価値に迫れると考える。

○資料提示の工夫(黒板シアター)

話の内容や登場人物の心情をとらえやすくするため、黒板シアターによる教材提示を行いながら範読する。授業の展開でも場面絵を提示することで、集中して資料に浸り、登場人物の相互関係や心情の違いを進んで考えるなど、主体的に授業に参加できるようにする。

5 本時の学習

(1) ねらい

親切にすると相手も自分も嬉しい気持ちになることに気付き、身近にいる人に思いやりの心をもって接し、親切にしようとする心情を育てる。

【 思考力・判断力・表現力 主体性 多様な考え 自主性・社会性 対応力(場相) 思いやりの心 思考の深まり 】

(2) 展開

主な学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
<p>1 「親切とは何か」について考える。</p> <p>○公園で滑り台やぶらんこで遊んでいる時、小さい子が貸してと言ったらどうしますか。</p> <p>・自分より小さいから貸してあげる。・貸してあげない。</p>	<p>◇相手に親切にするととはどんなことかを、一人一人が考えるきっかけとする。</p> <p>◇導入では、深く聞かない。</p>
<p>2 資料「はしの上のおおかみ」の前半部分を読み話し合う。</p> <p>○この話で困ったことは何でしょう。</p> <p>・一本橋は一人しか渡れない。・両側から一緒に渡れない。</p> <p>○「もどれもどれ」と言って、うさぎを追い返したおおかみは、どんなことを思っていたでしょう。(うさぎが戻る)</p> <p>・いじわるは楽しい。・もっとやりたい。・いい気持ち。</p> <p>○くまに出会った時、おおかみはどんなことを思っていたでしょう。(おおかみが戻る)</p> <p>・大きくて強そう。・怖い。・自分が戻ろう。・意地悪されないかな。</p> <p>○くまにそっと下ろされた時、おおかみはどんなことを思っていたでしょう。(2人とも渡る)</p> <p>・やさしいな。・そっと下ろしてもらおうと安心する。</p> <p>・うさぎさんに悪かったな。・こうすればいいんだ。・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○次の日うさぎに会ったおおかみはどうしたでしょう。どんなことを思ったでしょう。(4人→全体)</p> <p>・うさぎを抱き上げて後ろへおろした。</p> <p>・これからは親切にしよう。・自分も気持ちがいいな。</p> <p>・うさぎさんに悪いことをしてたな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○どの渡り方がいいと思いますか。どうしてですか。(ペア→全体)</p> <p>・2人とも渡る方法がいい。・2人ともいい気持ちになるから。</p> <p>・笑顔になれるから。</p> </div>	<p>◇何が問題なのか、どうすればよいのか考えられるようにする。</p> <p>◇自分より弱いものを見下し、威張ることで優越感に浸る喜びを感じていることに気付かせる。</p> <p>◇代表児童が役割演技をし、見ている児童にもおおかみやうさぎの気持ちを考えさせる。</p> <p>◇おおかみが自分より大きいくまをどう思っているか考えさせる。</p> <p>◇おおかみの立場が逆転したことに気付かせる。</p> <p>◇親切にされたおおかみの心の変化に気付かせる。</p> <p>◇普通にはしの上におろされた時とそっとおろされた時の気持ちの違いを考えさせる。</p> <p>◇代表児童が役割演技をし、見ている児童にもおおかみの気持ちを考えさせる。</p> <p>◇4人組をつくり、2人が役割演技をし、他の2人が感じたことを伝え合う。</p> <p>◇全員が役割演技をすることで、より自分のこととして考えられるようにする。</p> <p>◇資料の後半を紹介する。</p> <p>◇前のおおかみやうさぎの気持ちや表情と比べ、どうしておおかみが変わったのか考えさせる。</p> <p>◇なぜその方法がいいと思うのか意見を交流させる。</p> <p>◇全員が自分の考えを伝える機会をつくる。</p> <p>☆親切にすると自分も相手もいい気持ちになれることに気付くことができる。</p>
<p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>○これから友達や小さな子にどんな親切をしていきたいですか。</p> <p>・保健室に連れて行ってあげる。・遊びに入れてあげる。</p>	<p>◇どんなことがあるか考えワークシートに書き、自分の親切な心の色をハート形のぬりえで表す。</p> <p>☆身近な人に親切にしようとする気持ちをもつことができる。</p>
<p>4 教師の話聞く。</p> <p>○クラスの子の親切な行為を紹介する。</p>	<p>◇自分たちが親切にできていることを自覚させ、実践意欲を高める。</p>

第2学年 国語科学習指導案

日 時 7月4日(火)第5校時
学 級 第2学年1組 32名
指導者 関口 里可子

1 単元名 音読げきをしよう
教材名 「お手紙」

2 単元の目標

- ・物語に興味をもって読み、人物の気持ちを想像しながら進んで読むことができる。
【関心・意欲・態度】
- ・がまくんとかえるくんの気持ちの根拠となる言葉を見付け、叙述に即して想像を広げながら読むことができる。
【読むこと(1)ウ】
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けながら、場面の様子や人物の心情に合わせて、読み方を工夫して音読することができる。
【読むこと(1)ア】
- ・主語と述語の関係を理解することができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(カ)】

3 単元について

本教材は、二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。物語の展開に沿って、「がまくん」と「かえるくん」の行動がどう変わっていくのかを読み取らせたい。また、お手紙を待つ二つの場面の違いを、挿絵や叙述から読み取らせるなど、細かい点に注意しながら作品を味わう指導も合わせて行い、物語の読み方にも触れたい教材である。

「お手紙」は、友達の不幸せと一緒に悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、四日遅れの、しかも内容が分かっている「お手紙」を、仲良く待つ二人。友達同士の心の交流は、読み手までも幸せな気持ちにさせるため、共感をもって読み取らせたい。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

【心】友達と考えを伝え合い、互いのよさや違いに気付ける子

【心】言葉で自分の思いや考えを深めることができる子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】友達と考えを伝え合い、互いのよさや違いに気付くようにするために

○小集団活動

小集団活動を取り入れ、読み取ったことを交流することによって、登場人物の気持ちを表す言葉に気付いたり、想像を広げながら読んだりする。また友達の意見を聞いて付け足したり、付け足しをもらうことによって新しい考えを構築するきっかけをつくる。そして、友達に伝えるという目的をもつことによって、活動が明確になり、どんな児童も取り組みやすくなる。

○小集団活動のポイントの掲示

小集団活動を行う時に友達の考えとの相違に気付くことができるよう、伝え方や聞き方のポイントを掲示する。

【心】言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにするために

○役割キャップの活用

音読劇の学習の際に、自分が誰の役になりきるのかということを確認するために役割キャップを活用する。「がまくん」「かえるくん」「かたつむりくん」の3つのキャップをつくり、音読の練習の時から使って、気持ちを考えて音読できるようにする。

○授業の流れカードの利用

授業の流れを把握し、見通しをもちながら授業に参加するために授業の流れを表すカードを使う。視覚的に授業の流れを理解することで、主体的に学習活動に参加できるように補助することができる。と考える。

5 本時の学習（6 / 11 時間）

(1) ねらい

がまくんとかえるくんの気持ちの変化に気付き、場面の様子を想像して読むことができる。

【**思考力・判断力・表現力** 主体性 **多様な考え** 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 **思考の深まり**】

(2) 展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ●評価
1 前時までの学習内容を想起し、現在の登場人物の心情と場面の様子を確認する。	○がまくんの気持ち、かえるくんの気持ちを中心に振り返る。
2 第6場面を音読し、本時の学習課題をつかむ。	○本時の流れをカードを使って伝え、授業の見通しをもてるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> がまくんとかえるくんがなぜしあわせな気持ちになったのか考えよう。 </div>	
3 かえるくんからの手紙がどんな内容なのか読み取る。	○「親友」「親愛なる」の意味を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 4 がまくんとかえるくんが、なぜしあわせな気持ちになったのか考える。 (2名の小集団で自分の考えを伝え合う。) </div>	○自分の考えを理由とともに伝えられるように、今までの話したことやしたことを振り返って考えるよう声掛けをする。 ○友達の見解を聞いて付け足したい時には赤鉛筆で付け足すように伝える。 ○小集団活動での話し方や聞き方のポイントを確認する。 ●場面の様子を読み、がまくんとかえるくんの気持ちを考えている。(観察・ノート)
5 読み取った登場人物の気持ちを参考にしながら「とてもいいお手紙だ」の音読の工夫を考え、読み方を書き込む。	○がまくんの気持ちを表現できるように声の速さや大きさ、動きを工夫することを伝える。 ○役割キャップをかぶって役になりきるよう伝える。
6 本時の振り返りをする。(手紙をもらえたがまくんに言ってあげたいことを考えて書く。)	○「手紙をもらえてよかったね」ではなく、どうしてよかったのかを書くことができるよう例示する。

指導計画(2-1 国語)

	時	・学習活動	○留意点 □評価規準(評価方法)
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「音読げきをしよう」という学習課題を把握する。 ・「手紙」のイメージを膨らませる。 ・お話を読み、感想を書く。 	<p>○留意点 □評価規準(評価方法)</p> <p>○音読劇をするという学習課題を設定し、見通しをもつために、「ふきのとう」の音読劇や「スイミー」のペープサート劇を思い出す。</p> <p>○音読劇をするという目的を理解し、そのために登場人物の気持ちを考えることが必要であるということを伝える。</p> <p>○場面ごとに感想を短冊に書く。</p> <p>○ウェビングマップを使ってお手紙のイメージを膨らめます。</p> <p>関音読劇を行うことに関心をもち、学習に取り組もうとしている。(観察・ノート)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・あらすじを捉えるために、挿絵クイズをする。 ・セリフの確認をする。 ・役割キャップをつくる。 	<p>○挿絵を使って、お話の大まかなあらすじを捉えることができるようにする。</p> <p>○音読劇をするために、すべてのセリフを誰が言った言葉なのか確認する。</p> <p>○主語と述語の関係を伝える。</p> <p>関音読劇を行うことに関心をもち、誰のセリフか考えようとしている。(観察)</p> <p>読場面ごとに人物の行動と会話を整理しながら読んでいる。(観察)</p>
第2次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙をもらえず悲しんでいるがまくんの気持ちを考える。 	<p>○「誰が」「何をするのか」「何を言うのか」に気を付けて、内容を確認する。</p> <p>○挿絵の表情、会話文に着目し、動作化を取り入れる。</p> <p>○音読をする時に登場人物の気持ちになりきるために、役割キャップを使う。</p> <p>読場面ごとに人物の行動と会話を整理しながら読んだり、その様子が表れるように音読の工夫を考えたりしている。(観察・ノート)</p> <p>言主語と述語の関係を理解している。(ノート)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書くかえるくんの気持ちを考える。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の言動を比較し、それぞれの気持ちを考える。 	
	6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・しあわせな気持ちで座っているそれぞれの気持ちを考える。 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙をを一緒に待つ二人の気持ちを考える。 	
第3次	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、音読劇をする場面を決め、練習する。 	<p>○声の出し方や動き方について、音読の工夫を書き込ませる。</p> <p>読場面の様子が表れるように音読の工夫を考えている。(音読・ノート)</p>
	10 11	<ul style="list-style-type: none"> ・音読劇の発表会をする。 	<p>○それぞれの工夫について、よかった点を中心に振り返らせる。</p> <p>読これまでに学習した内容を生かして、音読劇を発表している。(発表)</p> <p>読友達の音読を聞いて、読み方や動きについてよかったところを伝えることができる。(発言)</p>

単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の特徴をつかみ楽しく音読しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読み取っている。 ・がまくんやかえるくんに気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文中の主語と述語との関係を理解している。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙について考え、「お手紙」を読んで感じた事を進んで発表しようとしている。 ・登場人物の言動や気持ちを考え、楽しく音読している。 ・登場人物へ、自分の気持ちを含めたお手紙を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる言葉をあげ、だれの会話文であるかを確認しながら、音読している。 ・がまくんとかえるくんの言動から、気持ちを想像しながら読んでいる。 ・かえるくんの行動を順序よく読み取り、場面の様子を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」が主語、「どうした・どんなだ・なんだ」が述語であることを知り、主語と述語が整った文を書いている。

第2学年 英語活動学習指導案

日 時 7月4日(火) 第5校時
学 級 第2学年2組 32名
指導者 幸徳 扶美子
A L T Jairo Rodriguez

1 単元名

「好きなもの」

2 単元の目標

英語でのゲームを通して、A L Tや友達に自分の好きな飲み物を伝えることができる。

3 本単元の意図

社会や経済のグローバル化が進展する中で、国際社会に生きているという広い視野をもつと共に、国を超えて相互に理解し合うことは、ますます重要な課題となっている。そのために子どもたちが、我が国の言語や文化を理解すると共に、体験を通して異文化を理解したり、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えを表現できる基礎的な力を身に付けたりすることが求められている。

本単元では、英語でのゲームを通して友達や外国人とのコミュニケーションを図り、主体的な自己表現をしたり、言語を理解したりする力を育成する。身の回りのもので、分かりやすいフレーズを取り入れることで、積極的に外国語でコミュニケーションができるような態度を育てていきたいと考える。またペアや小集団での活動を行うことにより、英語での会話の機会を増やし、楽しみながら会話のやり取りが行えるようにしたい。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像（英語活動の目標及び研究主題より）

【心】友達との関わりを通して、コミュニケーションを進んで図る子

【心】英語活動を通して、英語の基本的な音声や表現に慣れ親しむ子

(2) 研究主題（児童像）に迫るための手だて

【心】①友達との関わりを通して、コミュニケーションを進んで図れるようにするために

- ・ペア・小集団を中心に活動することで、英語の会話のやり取りの機会を増やす。同じフレーズで会話を繰り返すことで楽しく課題を解決することができ、よりよい関わりを築くことにつながる。また、学習した英単語を朝の会の時間などを使ってペアで発音したり、小集団で互いに歌を歌ったりするなど日常的にペア・小集団活動を行うことで学習内容の定着を図る。
- ・英語を使って人と関わる活動を楽しく行えるようゲームを取り入れる。簡単な会話のやり取りができるゲームを取り入れることで、どの児童も楽しんで活動に取り組むことができ、自ら進んで人と関わりたいという意欲を高める。また、言語理解の力を育成することにもつながる。

【心】②英語の基本的な音声や表現に慣れ親しめるようにするために

- ・A L Tによる発音練習を行うことで英語の発音をよく聞こうとする意欲を引き出す。また、英語の歌を歌ったり、A L Tを相手にした会話のやり取りを楽しく行ったりすることで、外国人に対して臆することなく関わろうとする意欲も引き出す。
- ・英語の言い方やゲームのやり方などがすぐに分かるようフラッシュカードや絵の入ったワークシートを取り入れる。児童がそれらを使い、進んで会話のやり取りを行って英語の言い方を知ったり、日本語との違いを比べたりする。

第2学年 体育科学習指導案

日 時 7月4日(火)第5校時
学 級 第2学年3組 33名
指 導 者 森田 慎
指導補助員 山下 智貴

1 単元名

鬼遊び「お宝ゲットゲーム～お宝ゲット大きくせん～」

2 単元の目標

運動	・鬼遊びを楽しく行い、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの動きができる。
態度	・鬼遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができる。
思考・判断	・簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができる。

3 運動の特性

- ・主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- ・鬼遊びに夢中になって取り組むことで走る、止まる、よける、追いかけるなどの動きを自然と身に付けることができる運動である。
- ・規則を工夫したり作戦を立てたりしながら楽しむ運動である。
- ・勝敗の結果をめぐって、正しい態度や行動をとることにつながる運動である。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像（体育の目標及び研究主題より）

【心】友達との関わりの中で、協力して楽しく運動したり自分の考えを伝えたりできる子
【体】運動の楽しさを味わい、進んで運動に取り組む子

(2) 研究主題（児童像）に迫るための手だて

- 【心】友達との関わりの中で、協力して楽しく運動したり自分の考えを伝えたりできるようにするために
- 友達と協力して楽しく運動するために
 - ・チーム意識をもって鬼遊びに取り組むために、単元を通して4～5名の小集団を活用する。
 - ・関わり合う必然性をもたせるために、よい動きに注目させたり、作戦を立てることのよさを伝えたりする。
 - 自分の考えを伝えるために（小集団活動をより活発にするために）
 - ・作戦タイムの設定と作戦ボードの活用をすることにより、話し合いをしやすい環境をつくる。
 - ・知識・技能の明確化・定着のために、学習カードによる振り返りと掲示物による視覚化をする。
 - ・児童の思考を広げるために、よい動きや作戦を共有し、掲示する。
- 【体】運動の楽しさを味わい、進んで運動に取り組めるようにするために
- 運動の楽しさを味わうために
 - ・単元の導入、一単位時間の導入において、児童が夢中になる運動遊びを取り入れる。
 - ・発達の段階を考慮した学習活動、学習計画の工夫をする。（やってみる→課題を見付ける）
 - 進んで運動に取り組むために
 - ・魅力的な教材、教具を取り入れる。（いろいろな鬼遊び、お宝）
 - ・深い学びにつなげるために、思考を促す言葉掛けをする。

＜よい動きに関する声掛け＞
「どうやったら鬼に捕まらないだろう」
「誰の動きが上手だったかな」
「〇〇さんのどんなところが
上手だったかな」
「まねしてみたい動きはあるかな」

＜作戦に関する声掛け＞
「どうしてたくさんお宝を取れたのかな」
「どうやったらたくさんお宝を取れるかな」
「どんな作戦がうまくいったかな」
「どんなところがうまくいかなかったかな」
「どこを変えたらうまくいくかな」

単元計画・評価計画 (2-3 体育)

		1	2	3	4 (本時)	5
めあて		いろいろなおにあそびであそぼう。	「お宝ゲットゲーム」でたのしもう。	お宝をゲットするためのさくせんを考えよう。	お宝をたくさんゲットするためのさくせんを考えよう。	「おたからゲットゲーム」大会をしよう。さくせんを立ててゲームをしよう。
学習活動		○学習の流れとめあてを確認する。前時の振り返りをする。 ○準備運動、場の準備をする。				
		○いろいろな鬼遊びを知る。 ・5歩鬼 ・増やし鬼 ・しっぽとり鬼 ・ボール運び鬼 ・ろくむしなど	①通り抜けゲーム ・ゲームの仕方を知る。 ◎お宝ゲットゲーム ・ルールを知る ・やってみる ・より楽しめるルールを考える →お宝が取りやすくなるルールを考える。 →攻守のバランスを考慮する。 ・再びやってみる	①ろくむし ・ゲームの仕方を知る。 ・動きのポイントを知る →よい動きを見付けたり、確認したりする。 ◎お宝ゲットゲーム ・やってみる ・作戦タイム →児童の自発的な考えを大切に、作戦ボードに書き表す。 ・再びやってみる	①ろくむし ・友達のよい動きを見付ける。 ◎お宝ゲットゲーム ・作戦タイム1 →前時の作戦や振り返りをもとに、本時で試す作戦を考える。 ・やってみる ・作戦タイム2 →作戦を改善したり、新しい作戦を考えたりする。 ・再びやってみる	◎お宝ゲットゲーム 大会 ・全チーム総当たりでゲームを行う。 (作戦タイム) ↓ ↑ (ゲーム)
		○振り返り (学習カード) ・本時のめあてに沿って、振り返りをする。				
学習活動に即した評価規準	運動		鬼から逃げたり、身をかわしたりすることができる。			鬼のいない場所に移動したり、駆け込んだりすることができる。
	態度	鬼遊びに進んで取り組もうとしている。				勝敗を受け入れながら、「お宝ゲットゲーム」に進んで取り組もうとしている。
	思考・判断		「お宝ゲットゲーム」の行い方を知り、より楽しく行えるためのルールを選んでいる。	より多く宝をとるための攻め方を選んだり、見付けたりしている。	より多く宝をとるための攻め方を選んだり、見付けたりしている。	

※「ろくむし」について

昭和期、野球人気を背景に生まれた子どもの遊び。

地域や集団、時期によってルールに差異がある。

本来はボールを使用。守備側が投げたボールを打ち、打者が塁を回る、野球に似た遊び。打ち手がいなくなったら、守備側はキャッチボールをし、6回往復する間に攻撃側は走り出さなければいけない。攻撃側は誰かが6周(ろくむし)したら勝ち。守備側は攻撃側全員にボールを当てるなどアウトにすれば勝ち。

※今回はルールを簡略化し、鬼に捕まらずに6周(ろくむし)する部分を残して、ボールなどは使用しないこととした。

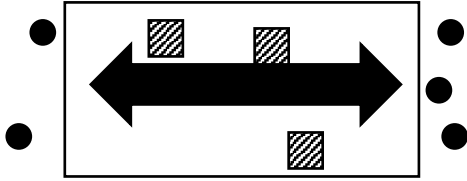
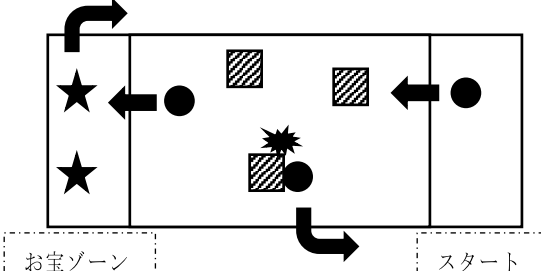
5 本時の学習（4 / 5時間）

(1) ねらい

○より多くの宝を取るための攻め方を選んだり、見付けたりすることができる。（思・判）

【**思考力・判断力・表現力** **主体性** **多様な考え** 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり】

(2) 展開

主な学習活動	○支援 ●評価
<p>1 本時のめあてを確認する。 お宝をたくさん取るための作戦を考えよう。</p> <p>2 準備運動をする。 ・音楽に合わせて体を動かす。</p>	<p>○前時の振り返りから、本時のめあてに沿った内容を取り上げて紹介する。 ○学習の見通しをもつために、本時のめあてと学習の流れを掲示する。 ○主運動につながる動きを取り入れる。</p>
<p>3 今日の鬼遊びに取り組む。 ・チーム対抗 ろくむし(2分×2回)</p>  <p>フィールドにいる鬼に捕まらずに6回通り抜ける。(通過鬼) 1回通り抜けたら「いちむし」と言い、以降「にむし」「さんむし」と増えて、最後に「ろくむし」と言ってあがる。 途中で捕まったら、「いちむし」から再スタートする。 T「上手に動いている友達を見付けられたかな」</p>	<p>○よい動きを意識するよう言葉掛けする。 ＜自分の体をコントロールする動き＞ 横によける動き、左右ステップ、フェイント ストップアンドゴー など ＜状況を見て判断する動き＞ 空いているスペースに走り込む 鬼の動きを見て、その反対に動く など ○よい動きに気付いている児童を称賛するとともによい動きを価値付けして全体で共有する。</p>
<p>4 「おたからゲットゲーム」をする。 ・チームに分かれて作戦を考える。 (作戦タイム1) … 3分 ・考えた作戦を使ってゲームをする。 2分×前後半×2回 ・ゲームをしてみて、作戦の練り直しをする。(作戦タイム2) … 3分 ・2回目のゲームをする。 2分×前後半×2回</p>	<p>○本時のめあてと前時までに出た作戦をもう一度確認する。 ＜例＞ くねくね作戦、一緒にスタート作戦、おとり作戦 はしっこ作戦 など ○作戦を書き表したり、チームで共有したりするために、作戦ボードを活用する。 ○対戦相手の確認ができるように、掲示する。 ●より宝を多くとるための攻め方を選んだり、見付けたりしている。(観察・学習カード)</p>
	
<p>5 片付け・整理運動 6 振り返り T「どんな作戦を立てたら、お宝をたくさん取れたかな」</p>	<p>○本時のめあてに沿った振り返りをするよう言葉掛けをする。</p>